

目的：前報において、超音波断層解析装置による皮下脂肪厚測定が有効であることが確認された。本報においてはそれをふまえ、皮下脂肪の身体分布状態を定量的に把握し、身体の外形的測定値との関連の検討を試みた。

方法：対象 一般女子学生 29 名(18～22 歳) 測定項目 a.超音波装置による皮脂厚測定値 20 項目(手くび部・前腕外側部・上腕後面部・頸部・胸部・腋前面部・臍部・下腹部・側胸部・腸稜部・側腹部・肩甲部・背部・転子部・殿部・足くび部・下腿内側部・下腿外側部・大腿内側部・大腿前面部、なお部位の名称は暫定的なものである。) b.外形的測定項目として身長・体重及び周径 10 項目 分析 (1)超音波値の測定項目別に平均・標準偏差を算出した。(2)超音波値とローレル示数との関係を検討した。(3)超音波値の測定項目別にその部位に対応する周径との相関係数を算出した。

結果：(1)測定項目別にみると、皮下脂肪厚の平均値は殿部・臍部・大腿内側部・下腹部・大腿前面部・側腹部・腸稜部の順に大きい。また、変異係数はいずれも身長等の外形的測定値に比較して極めて大きく、特に下腹部・臍部・殿部の順に大きい値を示している。

(2)皮脂厚値とローレル示数との関係では、ローレル示数が高くなるにしたがって、20 項目とも増加傾向が見られるが、特に上腕後面部・下腹部・側腹部・大腿内側部の脂肪沈着量の増加は顕著である。

(3)皮脂厚値と周径との関係では、上腕後面部と上腕最大囲・大腿内側部と大腿最大囲・側腹部と胴囲・臍部と胴囲の順に高い相関を示している。